

## 2007 FCJ シリーズ第 1-2 戦

今年、2007 年は何かカテゴリーもあるミドルフォーミュラの中から、FCJ というクラスに、昨年に引き続き「Team NAOKI with LE PRIX SPORT」から参戦させてもらえることになりました。この FCJ というクラスは日本を代表する、「TOYOTA、HONDA、NISSAN」という三大自動車メーカーが「世界に通用する若手育成」を目指し開催されるクラスです。このカテゴリーを選んだ理由はステップアップするのに1番チャンスが多く、昨年に比べレース数も18レースと走行距離も沢山走ることができ、参加台数も27台とどのカテゴリーよりも多く、注目度も高いという利点があり、自分が夢をかなえるために1番適しているなあと感じこのクラスを選びました。しかし、このクラスに出場するまでには本当に沢山のスポンサー様や、服部尚貴さん、レプリスポーツの皆さん、その他にも沢山のレース関係者の方にお世話になりました。この感謝は言葉で言い表せないくらい感謝しています。本当にありがとうございました。このご恩を返すには結果を残すということが1番だと思うので、今年こそは絶対にチャンピオンをとり、来年は F3 にステップアップします。

今年一年ご指導、応援の方よろしく申し上げます。

### ■ 3月16日 フリー走行 DRY 鈴鹿サーキット

今週のレースウィークはこの日に2回の占有走行があるだけで、次の日にはいきなり予選があります。レースウィーク前の合同テストでは徐々にトップとのタイム差も詰めることが出来、合同テスト2日目にはコンスタントにシングルポジションをキープすることが出来ました。けれどトップとのタイム差も常に0、8秒くらいあり、しかも上位を走っているドライバーも大体同じメンバーだったことから、根本的に走りのイメージを変えなければそのタイム差はつまらないと感じ、自分が遅かったコーナーの走り方を極端に変えてみて、どの方向性で走ればいいのか試すことから始めました。その結果、いい風に変えれたコーナーもあったのですが、良かったところが悪くなったりと、バラバラになってしまい、タイム的にも自分のベストタイムを更新できませんでした。けれどいいとこと悪いとこの差がわかり、コーナーごとにどういう走りをしてほしいかというイメージが出来てきたので、すごく意味のあるテストに出来たと思います。しかし、これからの課題としてはそのイメージ通りに1周をまとめることと、すぐには走り方を変えられないコーナーがあったので、そういう面で器用に乗り方を変えられるようになることだと感じました。

### ■ 3月17日 DRY 第1戦 公式予選 10番手

このクラスの予選方式としては、土曜日に15分ずつ、2回の予選を15分のインターバルを挟んで行います。まずはこの日に決勝レースが行われる第1戦の予選が行われました。予選時間開始と共にコースインし、昨日のイメージ通りに走ることを考えて計測1周目はしっかりタイヤを暖めます。そして徐々にタイムを上げていき、計測3週目に集中してイメージ通りの走りを意識しました。その結果、自分でミスに気付いたコーナーもあったのですが、自己ベストのタイムを更新することができ、そのまま続けて2周アタックしました。けれどそのタイムを更新することが出来なかったため、同じタイヤで走らなければならない第2戦の予選のことも考え、途中でピットインして第1戦の予選を終えました。結果はトップから0.5秒差の10番手でした。自分が想像していたよりもタイム差がつかまっていて0、1秒の大きさを更に実感しました。

### ■ 3月17日 DRY 第2戦 公式予選 10番手

1回目の予選が終わり、一度落ち着いてもう一回イメージをハッキリ思い出します。そして2回目も予選開始と共にコースインしました。そして次はタイヤも1回目の予選からそのままだったこともあり、計測1周目から本気アタックしました。その結果その週のデグナコーナーで軽くコースアウトしてしまったのですが、片輪が縁石を乗り越えてしまっただけだったので、続けて2周目のアタックを開始しました。けれど他の車がクラッシュしてしまい、赤旗で予選が一時中断してしまいます。そしてアタックを止めピットに戻ってきたのですが、エンジンのアイドルリングが異様に高く、メカニックさんにチェックしてもらいました。するとそのチェックをしてもらっている間に赤旗が解除されてしまい、徐々に予選時間が少なくなってきました。しかし、原因がわからず、時間もなくなってきたことから、そのまま再度走ることになりました。しかしその時点で残り2周アタックするのが精一杯だったので、クリアで走ろうと前との距離をあけて走り始めます。しかし1周目にすぐに別の車に追いついてしまったので、アタックを止め、最後の1周に全てをかけてアタックしました。けれど自分のミスで失敗してしまい、タイム更新は出来ませんでした。その結果、結局計測1周目にコースアウトした時のタイムになってしまい、23番手という信じられないような順位になってしまいました。しかし、いろんな要素があったとしてもこれが今の自分の実力だし、ラスト1周に関しては自分のミスでタイムアップのチャンスをなくしてしまったのでこれから迎える課題だなと実感しました。

### ■ 3月17日 DRY 第1戦 決勝 13番

この日は朝の予選から天気もよく、完璧な DRY コンディション中、決勝レースがスタートしました。コースインの周にはフロント、リヤ共にバランスよく暖めることを意識します。そして いよいよ2007年 FCJ の開幕です。

シグナルに集中してシグナルレッド・消灯・スタート！

タイミングはバッチリだったのですが、なんと前の車がストールしかけていて、避けるのが精一杯でした。しかもその時にアクセルを一瞬抜いてしまい、再度加速し始めた時にはすでに遅く、1コーナーまでに4、5台に抜かれてしまいました。そしてそのまま2台並んだまま S 字を上り、団子状態のまま1周目の13OR に2台並んで進入しました。その結果2台とも片輪をコースから落としながらも、ギリギリコースに留まる事は出来たのですが、完全に失速してしまい更に1つポジションを下げて戻ってきました。そこからは前と少し離れてしまったのですが、一旦落ち着いてから再度ブッシュしました。その結果あつという間に前の車に追いつき、明らかに自分の方がペースは速いのですが、中々抜くまでには至らず、結局そのまま13位でチェッカーを受けることとなりました。このクラスの特徴として車のセットなどは何も変更することが出来ないため、多少のタイム差があっても仕掛けることは難しく、相手のミスなどを見逃さず一瞬のチャンスで抜く技術が必要なことも身にしみて実感しました。そしてスタート直後の避ける方向にしても、自分は路面が汚れていてグリップしにくい方に避けてしまったりと、行き当たりばったりのレース運びでなく、もっと考えて一つ一つの行動をしないといけないことも実感したので、これからのレース運びに生かして第2戦に挑みたいと思います。

## ■ 3月18日 DRY 第2戦 決勝 リタイヤ

この日は朝から走行する時間もなく、いきなり決勝レースとなります。

この第2戦は23番手スタートだったのですが、自分本来の走りが出来れば、周りのドライバーとのタイム差も結構あるので、ドンドン順位を上げていこうと気持ちを盛り上げます。そして昨日のレース展開を振り返った結果から、レースが一旦落ち着いてくると中々オーバーテイクが難しいというのがあったので、スタート、1周目のタイヤが温まるまでが順位を上げるチャンスだと思い、スタート直後から積極的に行こうと思っていました。そしてしっかりタイヤを暖め、シグナルに集中します。

シグナルレッド・消灯・スタート

今回のスタートはタイミングはまあまあだったのですが、クラッチミートを少し失敗してしまい、順位は1つあげるくらいで1コーナーへ。そこからは2コーナーで1台を抜き、S字で更に2台をパス。そしてそのままバンクに並んで入ったのですが、ダンロップコーナーの立ち上がりからデグナーまででクロスラインを使い、また一つポジションをあげます。そしてスプーンで更に前の車に追い付き130Rでパス。そこからシケインも上手く立ち上がり、ホームストレートで完璧にスリッパに入ります。この時にどちら側に出ようか迷ったのですが、自分より先に相手がイン側に動いたので、そのままアウト側へマシンをふり、1コーナーにアウト側からかぶせて入ります。しかしそこまでの順位争いで自分の車の右前の翼端板が割れていたのが原因なのか、1コーナーアウト側で路面的にグリップしにくかったのかかわからないのですが、自分の車をコース上に留める事が出来ず、そのままコースアウトしてしまいレースを終えることとなってしまいました。

その後レースを振り返ってみて、今回自分がしたことは1番やってはいけなかったことだし、何の意味もないことだと思いました。このレースに出場するためにも沢山の方たちのおかげでやっと出ているのに、こんな無意味なことをしてしまい、本当にすいませんでした。

今回のことも実際の原因としてはいろんなことが考えられると思うのですが、まずは根本的に自分のメンタル面に問題があるなとも思います。自分も何も考えずに1コーナーに並んで入ったわけではないのですが、どんな言い訳をしようとも結果はコースアウトという結果なので、自分の実力と気持ちのコントロールが出来ていなかったことが全ての原因かなと思いました。

この結果を生かすには「二度と同じようなミスを繰り返さない」ということに尽きると思うので、技術的なことはもちろんなのですが、今1番自分に必要だと感じるメンタル面をトレーニングして次のレースに挑みたいと思います。

残りは16レースですが、1レースも無駄にしないで常に技術、メンタル面を成長させながらチャンピオンを目指しますので、今年一年ご指導、応援の方よろしくお願ひします。

Team NAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹